

平成25年5月10日

-----  
**第16回「信用金庫社会貢献賞」の受賞活動決まる！**  
**「西三河ハイスクール・起業家コンテスト」の**  
**西尾信用金庫（愛知県）が会長賞に**  
-----

一般社団法人全国信用金庫協会

全国信用金庫協会（会長：大前 孝治）が実施している、信用金庫業界の顕彰制度第16回「信用金庫社会貢献賞」の受賞信用金庫、個人受賞者がこのほど決定いたしましたので、お知らせします。

**第16回「信用金庫社会貢献賞」受賞活動**

賞の種類	信用金庫名（都道府県）	受賞活動名
会長賞	西尾信用金庫（愛知県）	西三河ハイスクール・起業家コンテスト
Face to Face賞	大阪信用金庫（大阪府）	職場体験学習の実施による地域貢献活動
	鹿児島相互信用金庫（鹿児島県）	貿易ミッション「そうしんTOBO会」
特別賞	石巻信用金庫（宮城県）	産学官金連携による震災復興支援の取り組み
	気仙沼信用金庫（宮城県）	NPOとの協働による復興支援
	城南信用金庫（東京都）	移動図書館による被災地支援活動
地域活性化しんきん運動・優秀賞	苫小牧信用金庫（北海道）	中心市街地活性化に伴う社会貢献活動
	帯広信用金庫（北海道）	とち酒文化再現プロジェクト
個人賞	さがみ信用金庫（神奈川県） 石井 健治氏	「からくりパズル」の発展・普及活動
	八幡信用金庫（岐阜県） 西村 勲氏	サッカーによる青少年育成と地域活性化
	新宮信用金庫（和歌山県） 上平 幸生氏	少林寺拳法を通じ青少年育成と社会貢献

本賞は、地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫が、さまざまな分野で地域貢献・社会貢献活動を実践している真摯な姿を多くの方々に知っていただくとともに、地域における存在価値を一層高めていくことを目的に、平成9年に創設いたしました。このような、地域に根ざした永年にわたる信用金庫の地道な活動に光を当て、これを顕彰することは大きな意義があると考えております。

今回は、昨年11月から本年1月までの募集期間に、153信用金庫・3関係団体から494件の応募がありました。その活動内容は多岐にわたっており、環境保全や社会福祉、金融教育支援、高齢化社会への対応のほか、東日本大震災からの復興支援、地域活性化への取り組み、次世代経営者の育成、取引先の販路拡大策など、どれも地域に根ざした信用金庫の不断の努力と叡智を結集したものとなっています。選考委員会での厳正な審査の結果、会長賞をはじめとする受賞8信用金庫、個人賞受賞3名の活動が決定いたしました。なお、来る6月21日（金）開催の第132回全信協通常総会において表彰式を執り行う予定です。

-----  
 <参考> 第16回「信用金庫社会貢献賞」応募状況

地区別応募状況

地区名	金庫・団体数	応募件数
北海道	14	40
東北	13	36
関東	25	72
東京	15	58
北陸	5	9
東海	26	94
近畿	27	106
中国	12	32
四国	2	8
九州北部	4	12
南九州	10	24
団体	3	3
合計	156	494

活動分野別応募状況

活動分野	応募件数
地域社会活動	254
スポーツ	58
社会福祉	30
芸術・文化	27
教育	33
環境	59
健康・医学	10
国際交流	2
史跡・伝統文化保存	4
災害救援	17
学術	0
合計	494

本件についてのお問合せは、全国信用金庫協会 広報部 小西、斎藤、鈴木(拓)、山本 (TEL.03-3517-5722 FAX.03-3517-5792)までお願いいたします。
--

## 第16回「信用金庫社会貢献賞」の選考総評と受賞活動の概要

### 1. 選考総評 地域再生は中・高校生への支援から

選考委員 松岡紀雄氏（神奈川大学名誉教授）

第16回の社会貢献賞には494件と、これまでで最も多くの応募が寄せられた。ただ、手放しで喜べないのは、応募信用金庫が153と、全信用金庫の56%に止まっている点である。選考委員会では「小さくてもキラリと光る」社会貢献活動に目を向けている。次年度には、さらに多くの信用金庫から新たな応募が寄せられるよう、強く期待している。

今回の**会長賞**には、西尾信用金庫の「西三河ハイスクール・起業家コンテスト」が選ばれた。廃業率が開業率を上回り、事業所数の減少に歯止めがかからないという現象は、多くの信用金庫が直面している問題に違いない。同信用金庫では、地域の高校生に実際にビジネスに携わる機会を提供し、地域経済の活性化を図ることが不可欠と考え、校長会に企画を提案、2010年度から高校生による起業家コンテストを開催している。地域の全10校が参加、それぞれ5～20名のチームで仮想企業を作り、社長や部長をおいて事業計画の策定や商品開発、製造、広告、販売、経理などを高校生自らが考えて実施する。近隣の支店がサポート店となり適切なアドバイスを行うとともに、審査発表会では、地元企業経営者や大学教授が審査に加わっている。日本の再生は、文字どおり意欲と創意あふれる若き人材にかかっている。地域に密着した信用金庫ならではの貢献と高く評価したい。

**Face to Face賞**に選ばれたのは、大阪信用金庫の「職場体験学習の実施による地域貢献活動」と、鹿児島相互信用金庫の「貿易ミッション『そうしんTOBO会』」である。中・高校生の職場体験学習の重要性が叫ばれて久しいが、多くの学校が職場探しに苦しむ中、大阪信用金庫では全支店ばかりか取引先にも呼びかけて受入れを支援している。後者は、急速に進む中小企業のグローバル化に応えた、長年にわたる地道な活動が評価された。

今回の**特別賞**には、そろって東日本大震災関連の取り組みが選ばれた。石巻信用金庫の「産学官金連携による震災復興支援の取り組み」と、気仙沼信用金庫の「NPOとの協働による復興支援」、それに城南信用金庫による「移動図書館による被災地支援活動」である。前二者は巨大地震と津波による災害に直面した信用金庫であるが、その取り組みは驚くほど多面的である。教えられるのは、被災前からの日頃の地道な活動が基盤となっていることである。城南信用金庫の取り組みには考えさせられる点が多い。移動図書館車2台を購入し、6名の職員ボランティアが1週間交代で継続的に14ヵ所の仮設住宅を巡回している。ただ本を貸し出すだけではなく、過酷な経験をした被災者の気持ちを受け止める真摯な傾聴が、多くの被災者の心の支えとなっている。加えて、「支援で人から物をもらうのが当たり前になってしまった子どもたちに、借りた物は感謝の気持ちを持って返す、ということを教えることのできる、とてもよい機会です」と感謝されているという。

**地域活性化しんきん運動・優秀賞**に選ばれたのは、苫小牧信用金庫と帯広信用金庫である。前者は、本店の建て替えを機会に、衰退を続ける中心市街地を活性化すべく、自ら地域のランドマークとなる工夫を凝らしている。多くの市民が自然に集えるように、まちなか交流館や足湯、市民ギャラリーも設けている。後者は、途絶えていた伝統の地酒の復活を通じ、地域の連帯による活性化を図っている。

**個人賞**には、石井健治さん（さがみ信用金庫）の「『からくりパズル』の発展・普及活動」と、西村叡さん（八幡信用金庫）の「サッカーによる青少年育成と地域活性化」、上平幸生さん（新宮信用金庫）の「少林寺拳法を通じ青少年育成と社会貢献」が選ばれた。いずれも未来につながる活動である。

## 2. 受賞活動の概要

### 【会長賞】

#### 西尾信用金庫（愛知県）／西三河ハイスクール・起業家コンテスト

西尾信用金庫の営業地域においても、廃業率が開業率を上回り、事業所の減少に歯止めがかからない状況が続いており、創業支援をはじめ地域経済の活性化は喫緊の課題である。また事業所の減少は、若年層にとっても雇用機会の減少となり、大きな不安要素である。

同信用金庫では、将来を担う高校生に実際にビジネスに携わる機会を提供する取り組みとして、平成 22 年より「西三河ハイスクール・起業家コンテスト」を企画。自分で考え自ら行動できる人材、将来の起業家の育成をめざし、愛知県西三河南部の実業系高校の協力を得て実施している。

平成24年度は、第3回目となる「西三河ハイスクール・起業家コンテスト2012」を開催。参加高校10校、参加人数278名。各校とも生徒5～20名程度のチームを作り、仮想企業として社長、部長等の役職責任者を置き、事業計画の策定、商品開発、製造から販売、決算に至るまで高校生自らが行った。また6ヵ月間の事業活動中は西尾信用金庫の支店長もアドバイザーとして参加した。期間終了後は報告書を提出するとともに、事業活動の成果を発表する場として審査発表会を開催。高校生が実践した事業活動の中には、山崎製パンと共同開発が行われ、「メロンパンサンド」として商品化されたものもある。

---

### 【Face to Face 賞】

#### 大阪信用金庫（大阪府）／職場体験学習の実施による地域貢献活動

「中学生の職場体験学習」は中学2年生の必須課程となっているが、各中学校単位で協力企業を探すのは困難で、大半の中学校が苦勞している。そこで、大阪信用金庫では、取引先企業にも「職場体験学習」の受入協力を依頼するとともに、自らも生徒の受入れを実施している。

平成16年、大阪市立西淀中学校から生徒4名を受入れたことを皮切りに、21年には12校から、22年には、全支店にて受入れを実施すべく、支店長が最寄りの中学校を訪問し趣旨を説明。同時に取引先企業にも社会貢献活動として協力を依頼した。

また、同取り組みに対し、大阪府キャリア教育支援ステーションより広報面等で積極的な協力の申し出があり、ホームページでの紹介や職場体験学習の受入れを希望する中学校の紹介をいただいた。

以下、受入実績として

- 平成22年度は、金庫45カ店143名、取引先企業7社29名、合計172名
- 平成23年度は、金庫45カ店171名、取引先企業11社36名、合計207名
- 平成24年度は、金庫52カ店167名、取引先企業8社29名、合計196名の職場体験学習受入れを実施した。

### 【Face to Face 賞】

#### 鹿児島相互信用金庫（鹿児島県）／貿易ミッション「そうしんTOBO会」

鹿児島相互信用金庫では、県内企業と海外企業のビジネスマッチング推進を目的に、平成2年より貿易ミッション・通称「TOBO会」を毎年開催。これまでの26回で、859名が参加している。

平成14年からは、買付け・売込みに特化した小規模な「ミニTOBO会」も開始し、視察だけでなく具体的な商談に結び付けられる環境づくりに努めている。

平成17年からは、鹿児島県の農林水産品（焼酎、木材、魚介等）の中国輸出支援も開始。

平成18年には極東ロシア、22年にはベトナムへも派遣し、「チャイナプラスワン」を模索

する中小企業に幅広いビジネスチャンスを提供している。

※「<sup>と</sup>と<sup>ぼ</sup>BO会」の名称は、平成2年の発足当時に放映されていたNHK大河ドラマ「翔ぶが如く」で頻繁に使われた「泣こかい、飛ぼかい、泣こよかひつとべ」という台詞から命名されている。

意味は、困難にぶつかった時、何もせずその場で泣きくれているより、思い切って行動してみようというもので、海外から安価な製品が押し寄せて来て淘汰される前に、自ら行動し、海外に活路を見出そうという決意が込められている。

---

## 【特別賞】

### 石巻信用金庫（宮城県）／産学官金連携による震災復興支援の取り組み

東日本大震災からの復旧・復興に向けた地域貢献活動として、以下に取り組んでいる。

- ①地域への希望と被災企業の復興支援を目的とした産学官金連携活動（石巻信用金庫、石巻専修大学、石巻商工会議所、気仙沼信用金庫、気仙沼商工会議所）
  - 「町並み再現プロジェクト」の取り組み／石巻専修大学と連携し、震災前の姿を復元する立体模型を製作し、金庫本・支店のロビーに展示。
  - 三陸産業再生ネットワークによる販路開拓支援活動／群馬県前橋市の農産物販売所で鮮魚販売会を実施したほか、石巻地域の2社、気仙沼地域の1社を対象に、青森県八戸市での代替生産を支援。また、気仙沼市で、代替生産・販路開拓の説明と個別相談を実施。
  - 原発風評被害セミナー／石巻専修大学の教授を講師に、セミナーを開催。
  - 東北未来創造イニシアティブ／石巻市、東松島市、女川町の協力により、東北三県など被災地での起業と雇用を創造することを目的として、新たな事業に取り組む起業家への資金提供や、地域で復興を担う人材育成を行う「復興支援型地域社会雇用創造事業」を実施。
- ②復興や次世代の人材育成を支援目的とした経営塾の活動
  - 復旧への取り組みに関する情報交換会や、塾生企業の販路拡大支援のための情報発信、視察に訪れた他信用金庫取引先との交流会等を実施。
- ③震災による児童の心のケアを目的としたマネースクールの活動
  - 従来のマネースクールの内容を拡大し、バス旅行のスタイルで、日本銀行仙台支店やNHK仙台放送局の見学と合わせて実施した（マネースクールは信金中央金庫東北支店で実施）。

## 【特別賞】

### 気仙沼信用金庫（宮城県）／NPOとの協働による復興支援

気仙沼信用金庫では、東日本大震災からの復旧・復興に向けて、三陸沿岸地域における長期的な自立復興と地元経済の再建を目的に、米国のNGOメーシーコープと、特定非営利活動法人プラネットファイナンスジャパンとの連携により、基金総額200万ドルの「三陸復興トモダチ基金」を設立。国内外にその活動が認められ、現在の基金規模は500万ドルに拡大している。

同基金は、プラネットファイナンスジャパンからの小規模事業者向け復興支援プログラムの提案をもとに気仙沼信用金庫と協働で「雇用支援」「創業支援」「利子補給」の3事業を運営している。

●2011年11月から2013年3月までの支援実績は次のとおりである。

- ①被災地域再生・新規創業助成：36先、52,775千円
- ②被災事業者再雇用サポート助成：78先（103名分）、123,600千円

③障がい者向けアクセス改善助成：2先、1,000千円

④事業者向け融資および起業・創業向け融資助成（利子補給）：200先、85,379千円（融資額：1,679,940千円）

また気仙沼信用金庫は、同基金の取り組みにより、平成24年4月、東北財務局長より「地域密着型金融に関する取組み」として顕彰された。

### 【特別賞】

#### 城南信用金庫（東京都）／移動図書館による被災地支援活動

城南信用金庫は、東日本大震災直後に3名の金庫役員を中心とする「被災者支援対策本部」を設置し、平成23年には150名の役職員がボランティア活動を行ったが、「継続した支援として真に必要とされるもの」は何かを検討した結果、仮設団地を継続的に巡回できる「移動図書館」活動に取り組むこととした。

移動図書館車両2台を購入し、役職員やお客様から寄贈された3,000冊の本を揃え、24年1月から活動を開始。6名の職員が1週間交代で14カ所の仮設団地を巡回している。また、図書の貸し出しだけでなく、炊き出しやカラオケセットを持ちこんで楽しんでもらう、といった取り組みも行っている。

この活動の真の目的は、移動図書館車で巡回しながら、過酷な経験をした被災者の方々の話を「傾聴」することにある。

平成25年1月現在、全50班が活動中であり、これまでのべ300人以上の職員ボランティアが参加してきた。

これからも、要望がある限り継続していきたいとのこと。

---

### 【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

#### 苫小牧信用金庫（北海道）／中心市街地活性化に伴う社会貢献活動

苫小牧信用金庫は、苫小牧中心市街地の空洞化対策として、平成18年「苫小牧駅前空き店舗対策助成金交付制度」の制定に着手。苫小牧市、苫小牧商工会議所と検討を重ねた結果、「まちなか再生総合プロジェクト」構想が誕生した。平成22年2月には苫小牧市担当部長を講師に迎え説明会を開催し、役職員への周知を図った。

この間、苫小牧信用金庫は、本店の老朽化を受けて、耐震性向上のため補強工事を行うか、建て替えるかを検討し、熟慮の結果、市民参加型の新本店の建設を決定。中心市街地の活性化に一石を投じるため、自ら中心地域のランドマークとなるべく、新本店の着工に踏み切った。

また、苫小牧市とのタイアップにより旧本店跡地に建設された「まちなか交流館」は、足湯を楽しみながら多くの方が集まる施設となり、友好都市である中国秦皇島市からは、秦の始皇帝が不老不死を求めて訪れたとの伝説がある「長寿山の石」の寄贈を受け、傍らに長寿山地蔵尊と銘打った地蔵を建立した。

さらに、子会社「とましんパートナーズ」を中心に、関係部署からの委員による「市民サロン等施設利用推進委員会」を設置。催事・イベント等を企画し、毎月はじめに地元新聞広告で発表し、集客をはかっている。

このほか、各支店の支店長を地域特産品特使に任命し、特産品生産者に販売チャンネルを提供している。

## 【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

### 帯広信用金庫（北海道）／とち酒文化再現プロジェクト

帯広信用金庫の営業基盤である北海道十勝では寛永初年（1789年）より酒造が行われていたが、昭和56年には途絶えてしまった。「十勝の米と水で地酒を造り、地域の人たちや十勝を訪れるお客様に楽しんでもらいたい」という思いから、十勝での地酒復活と、それに伴う地域活性化および産学官金融・農商工連携の推進を目的に、平成22年8月、帯広信用金庫を事務局とする「とち酒文化再現プロジェクト」をスタートした。

十勝での同プロジェクトへの関心は高く、発売初年の純米吟醸「十勝晴れ」4,000本は即日完売が続出し、発売開始から数日で「まぼろしの酒」となった。2年目は、より多くの人に楽しんでいただけるよう、酒米の作付面積を2倍に拡大。大豊作も重なり、10,000本以上の販売を予定している。

また、同プロジェクトの活動は、①地元事業者による「十勝晴れ」酒粕と地元食材を組み合わせたスイーツなどの商品づくり、②連携機関のネットワーク形成、③田植え作業など実体験を通じた地元小学生への教育効果、④十勝における酒造の歴史の掘り起こしと情報発信、⑤地域への明るい話題の提供—などの効果を上げている。

<連携機関（五十音順）>

音更町、帯広市、帯広酒販協同組合、帯広商工会議所、帯広信用金庫（事務局）、国立大学法人帯広畜産大学、木野農業協同組合、田中酒造株式会社、北海道十勝総合振興局

---

## 【個人賞】

### さがみ信用金庫（神奈川県） 石井 健治 氏

#### ／ 「からくりパズル」の発展・普及活動

近年、アジア諸国からの輸入品に押され、小田原・箱根地方の木工業界の事業規模・事業所数は縮小傾向にある。一方、この地方では組木・秘密箱・玩具等の仕掛けもの（からくりパズル）が多くつくられ、世界のパズル愛好家から「Puzzle Mountain」「Treasure Mountain」と賞賛されている。そこで、「小田原・箱根の木工技術、文化を継承したい」との思いに共感した石井氏は、それらの運営に参加。

毎月の定例会での議論をもとに、パズル教室、パズル愛好家団体との共同イベント、地域事業者との交流イベント等を開催している。

## 【個人賞】

### 八幡信用金庫（岐阜県） 西村 勲 氏

#### ／ サッカーによる青少年育成と地域活性化

西村氏は、昭和48年、地元有志を募って地域初の社会人クラブ「郡上サッカークラブ」を創設。同クラブでの活動の傍ら、平成4年には「ジュニア郡上八幡フットボールクラブ」を創設するなど、永年にわたってサッカーの普及およびサッカーを通じた青少年育成に尽力してきた。

平成5年には「郡上郡サッカー連絡協議会」（現「郡上市サッカー協会」）を発足し、自らが会長となって運営している。特に小・中学生を対象としたサッカー大会を数多く企画・開催。活動を継続していく中で、自らが関わっているサッカーを通じて地域の活性化を図ることはできないかとの思いを抱き、平成18年、子どもたちの夏休み期間を利用したサッカー交流会の開催を企画した。

同氏は郡上市サッカー協会の会長として、また、信用金庫職員・支店長としての人脈を活かし、地元観光協会および地元宿泊業者と連携して市外のチームを招くなど、地域と一体

となった活動を行ってきた。平成24年までに交流会の開催は18回を数え、累計で232チーム、4,696人が地元宿泊施設に宿泊するなど地域活性化に直接寄与する活動となっている。

### 【個人賞】

新宮信用金庫（和歌山県） かみだい上平 ゆきお幸生 氏

／ 少林寺拳法を通じ青少年育成と社会貢献

上平氏は、体が弱く、引っ込み思案であった自分が、少林寺拳法に取り組むことで肉体的にも精神的にも強くなれたことから、少林寺拳法によって青少年の心と体を強くし、社会に役立つ人間を育てることができると考え、昭和60年に少林寺拳法の指導者資格を取得し、那智勝浦町で指導と地域貢献活動を開始した。

地域貢献活動として、社会に貢献できる人間を育てるために、金剛禅総本山少林寺那智勝浦道院の拳士とともにボランティア活動も展開。那智勝浦町と新宮市にそれぞれ1台ずつ車椅子も寄贈している。

以 上



<参 考> **第16回「信用金庫社会貢献賞」について**

【創設目的】 地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫の原点を踏まえ、地域の発展に貢献する信用金庫の真摯な姿を広くアピールし、お客様や地域の信頼を揺るぎないものとするとともに、地域での存在感を一段と高めていく。

【対象活動】 信用金庫にふさわしい地域に根ざした活動で、地域振興、社会福祉、芸術・文化支援、史跡・伝統文化保存、交通安全、教育支援、留学生・在日外国人支援、環境保全、各種ボランティア等の地域社会活動および災害救援活動等の分野とする。

【表彰対象】 ・信用金庫および信用金庫役職員（個人・グループ）  
・地区・府県信用金庫協会、中央団体

【選考基準】 活動の継続性（3年以上継続された活動であること。ただし、特別賞、地域活性化しんきん運動・優秀賞は除く）、活動目的の社会的意義、地域との一体性（地域に溶け込んだ地域の方々と一体となった取り組み）、活動の困難度、援助を受ける側の評価・感謝の度合い、関係者または地域社会に与えた影響、活動内容・方法のユニークさ、などを総合的に判断する。

【応募期間】 平成24年11月1日から25年1月31日まで

【選考委員】 ※所属等は平成25年4月現在、敬称略

島田	京子	公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団 専務理事
高橋	陽子	公益社団法人 日本フィランソロピー協会 理事長
中村	利雄	日本商工会議所 専務理事
野坂	雅一	読売新聞東京本社 論説副委員長
堀田	力	公益財団法人 さわやか福祉財団 理事長
松岡	紀雄	神奈川大学 名誉教授
大前	孝治	一般社団法人全国信用金庫協会 会長
服部	順一	信金中央金庫 副理事長
澁谷	哲一	一般社団法人全国信用金庫協会 広報委員会 委員長

【各賞の内容】

**会 長 賞**・・・活動の社会的意義、地域との一体感、地域社会に与えた影響等を総合的に判断し、Face to Face 賞、特別賞、地域活性化しんきん運動・優秀賞の受賞候補活動の中から最も優れた活動に対し与えるものとする。

**Face to Face 賞**・・・地域金融機関にふさわしい、地域社会に溶け込んだ、地域の方々と一体感を深めることに寄与した活動および地域金融機関の社会貢献活動として今後の取り組みが期待され、奨励される活動に対して与えるものとする。

**特 別 賞**・・・活動期間は短期間ではあっても、近年、関心の高い環境・社会問題への取り組み、災害復旧支援など、関係者や地域社会に大きく貢献した活動等に対して与えるものとする。

**地域活性化しんきん運動・優秀賞**・・・地域社会と中小企業の再生・活性化をめざす活動のうち、各々の地域社会の実情と信用金庫の特性に合わせたユニークで、他の範となる活動に対して与えるものとする。

**個 人 賞**・・・個人あるいはグループの取り組みで、信用金庫職員として他の範となる活動に対して与えるものとする。